

なつやすみ

1



たまごやきやいたよ

豊田 美山小・一

いけだ ともまき

あさおきて

たまごやきのいいにおい

三年生のおにいちやんが

ぼくもつくりたいな

ぼくも上手にできるのにな

つくっているときの

おにいちやんは

とてもたのしそう

きょうはぜったいつくりたい

キツチンにいろおにいちやんに

「ぼくもやりたい。」

といてみた

おにいちやんが

「だめ。まだできないよ。」

といてた

ぼくはおこった

パパが

「なつ休みにになったら

いっしょにつくろう。」

といてくれた
たのしみだな

いよいよ

その日がやってきた

たまごをわりますよ

カンカン

ピキピキ

ポーン

ポーン

たまごをやきますよ

ジャージャー

ポクポク

ポクポク

水を入れましょう

ジュージュウ

ふたをしめて

まだかな

まだかな

いっ

ふんたちました

ふたをあけると

白くもにかくれたお月さま

かんせいだ



あつ

まちがえて

目玉やきができちゃった

文詩集『みかわの子』第62号より

おうちのかたへ

子どもたちが、待ちに待った夏休みになりました。

長期の休みでなければ手がけることのできない継続観察などの貴重な体験は、おうちの方々の適切な助言や心づかいによって、いっそう効果を高めることができます。

無理のない計画を立て、夏休みの過ごし方を工夫していただければ幸いです。

表紙の絵は、令和六年度「みかわ彩発見絵画コンクール(春・夏の一部)」最優秀賞幸田町立坂崎小学校一年鈴木湊人さんの作品『探検隊』です。

なつあつみのせりか

きそくただしく すごす ために たいせつな ことについて
おうちの ひとと はなしあいましょう。

- 1 はやおきを しまししょう。 2 あさごはんを たべまししょう。
おきる じこくを かきま
ししょう。()



- 3 ^{げえむ} ゲームや ^{たぶれっと} タブレットなど
の やくそくを きめまししょう。 4 はやく ねまししょう。
ねる じこくを かきま
ししょう。()

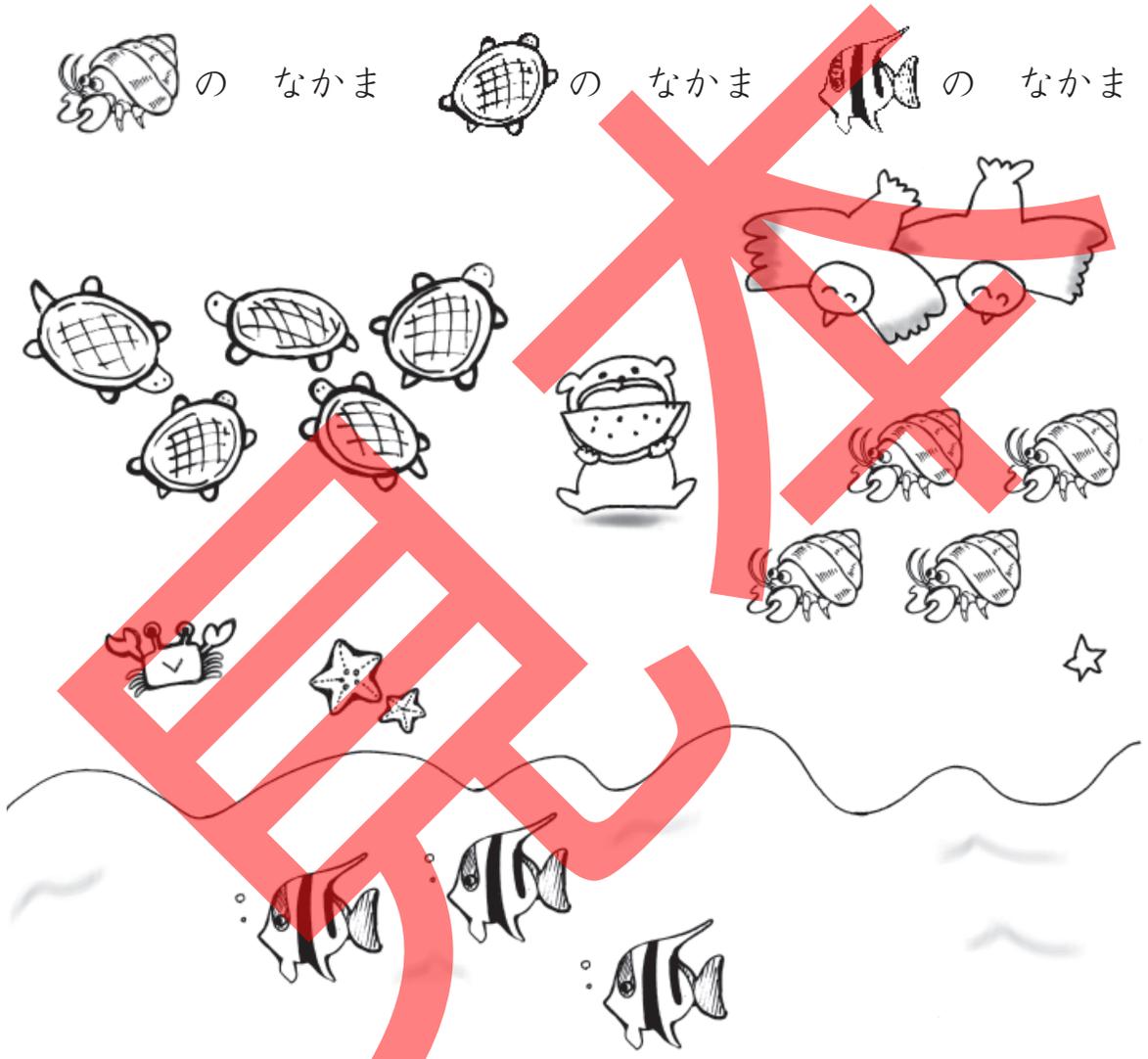


がっ にち ようび

ななかまづくり

1 おなじ なかまを で かこみましょう。

 の なかま  の なかま  の なかま



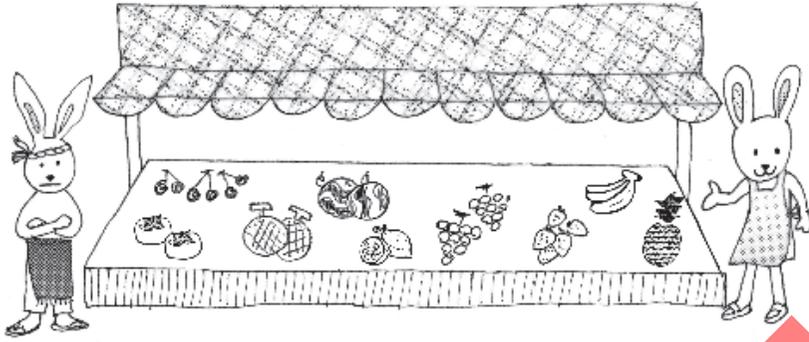
2 なかまの かずを すうじで かきましょう。

(1)  ひき (2)  ひき (3)  ひき

がつ

にち

ようび



くだものやさんの しなものの

くだものやさんの しなものの じが きえて
 しまいました。えを みて きえて しまった
 じを かきましよう。

(9)	(7)	(5)	(3)	(1)
い	な	ぶ	ん	か
つ				
	(8)	(6)	(4)	(2)
	ん	ご	い	く
				

みずあそび

みずの なかを あるいたり ういたり もぐったりして
あそんで みよう。 どんな ことが できるかな。



かおを ぽっちゃん

てで おいけを つくって、その なかに
かおを つけて みよう。



じゃんけん れっしゃ

じゃんけんを して、まけたら うしろに
ついて あるいて みよう。



ぶく ぶく ぱっ

みずの なかで いきを はいてみよう。
おおきな くちを あけ、「ぱっ」と いきを
すって みよう。



すいちゅう じゃんけん

かおを みずにつけ、みずの なかで
じゃんけんを して みよう。



だるま うき

ひざを かかえて だるまの ような
かっこうで ういて みよう。

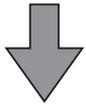
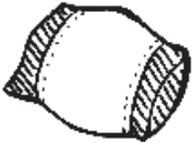
がつ

にち

ようび

(4)

ま
く
ら

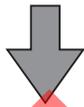


ま
く
ら



(3)

ひ
と



ひ
と



(2)

ま
ち



ま
ち



(1)

ね
こ



ね
こ



ちいさい「つ」のつくじ

えをみて、のじをなぞりましょう。
 またうえのことばにちいさい「つ」を
 たして、ちがうことばにへんしんさせま
 しょう。

ようび

にち

がつ

よんでみよう

よんだ ほんで おもしろかった
ところを えに かいて みましょう。

こんな ほんも いいですよ

○「とべバッタ」

たしま せいぞう 作・絵 (偕成社)

○「どれみふあけるけろ」

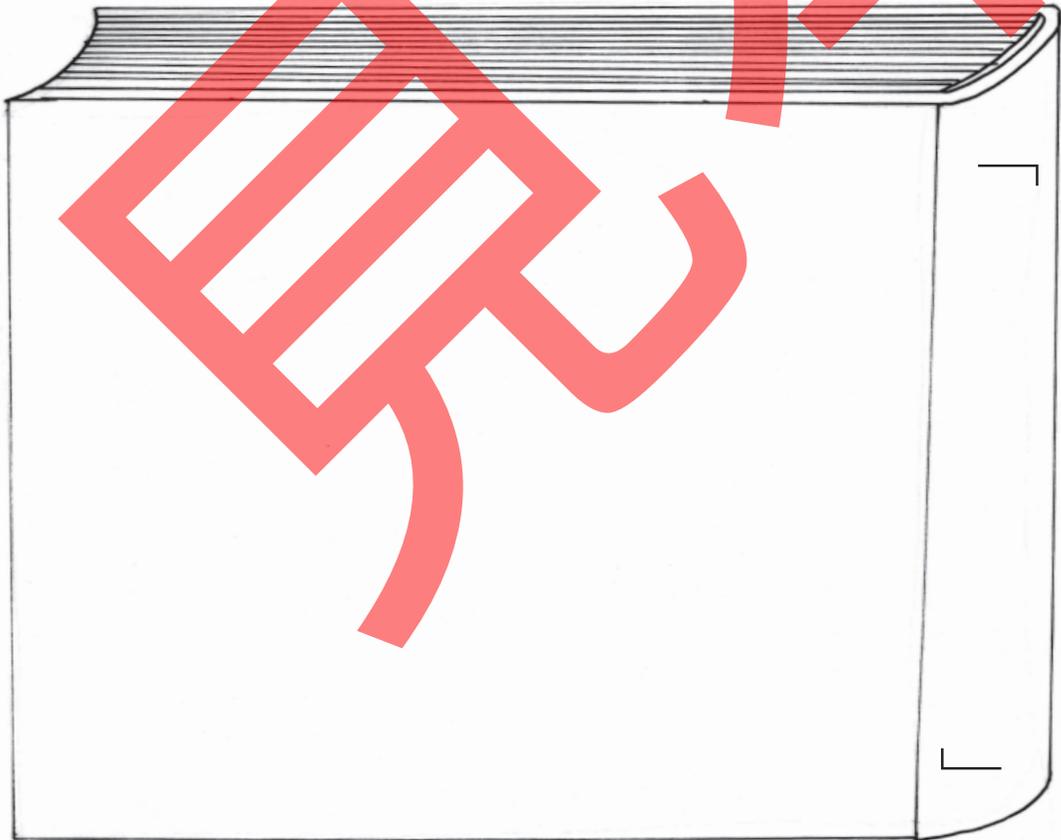
ひがし くんぺい 作・絵 (あかね書房)

○「むしの あいうえお」

いまもり みつひこ 作・絵 (童心社)

○「やさしいの おなか」

きうち かつ 作・絵 (福音館書店)



ほんの だい

がつ

にち

ようび

すうじのおけいこ

-----で かかれた すうじを なぞりましょう。その よこに
ただしい かきじゆんで その すうじを れんしゅう しま
しょう。



① ↓		
--------	--	--



① ○		
--------	--	--



① ↻		
--------	--	--



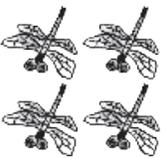
①② ↘		
---------	--	--



① 8		
--------	--	--



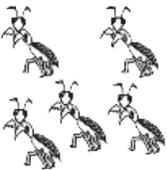
① 8		
--------	--	--



①② 4		
---------	--	--



① 9		
--------	--	--



①② 5		
---------	--	--



①② 10		
----------	--	--

さじべえ

いぞ

ようび

にち

がつ

「あしたも、あめは 降りそうにない。これでは、いどみずも かれてしまう。」
 まつかな ゆうやけぞらを ながめながら、
 きょうも さじべえさんは、ためいきを ついて います。

重原しげはらの むらは、おかの うえに あって、
 ふだんでも みずの すくない ところだす。
 もう ひとつきちかく あめが ふらず、むらの ひとたちは のみみずにも こまっています。

いくら しんせつで はたらきもの の さじべえさんでも、こればかりは どうしようもありません。

「おたのみもうします……。」
 さじべえさんが ふりむくと、いえの まえに ひとりの おぼうさんが たっていました。

「たびの ものですが、みずを 一いっぱい ごちそうして くださらんか。」

「あいにく、くみおきの みずが なくてのう。」

いちどは ことわった さじべえさんですが、おぼうさんの のどは かわききって いるよ うです。

「まっついて いて ください。なんとか みずを くんて きましよう。」

さじべえさんも、かわいた のどを ならしながら、こしを のばして とおくの いどま で かけて きました。

ゆうやけぞらが うすれて、あたりが だんだん くらくなつて きました。

「やれ やれ。おまたせ しましたな。それ、 たんと のんで くださいや。」

「これは、これは。ごちそうに なります。」
 おぼうさんは、おいしそうに おとを たてて、のみほしました。

ようび

にち

がつ

「ああ、いきかえりました。ごちそうに なり

ました。ところで、ずいぶん ながく か

かりましたが、どうなされた。ごめいわく

を かけたのでは ありませんか。」

さじべえさんは、「なんの なんの。」とい

いながらも、いどが とおい ことや、みずが

へって くみあげるのが たいへんな ことを、

えんりよがちに はなしました。

「それは たいへんでしたな。あちこちで、み

ずが ないといつて ことわられましたの

に、あなたは しんせつな おひとじゃ。」

おぼうさんは そう つぶやくと、なにか

おいのりを はじめました。

そして、もっていた つえで、じめんを

んとんと たたきました。

すると、ふしぎにも、そこに みずが にじ

み、あとから あとから、どんどんと あふれ

だして きたのです。さじべえさんは、おどろ

いて こえも ませんでした。

「こんな うまい みずは はじめてじゃ。」

「あめが ふらなくても、ここの みずは

ちつとも へらんのう。」

むらの ひとたちが あつまると、その い

どの うわさばなしです。

「あれは、ただの おぼうさんじゃ ないぞ。」

「うわさに きいた 弘法こうぼうさままでは…。」

それから、むらの ひとたちは、だれにでも

しんせつに なりました。

た。そして、さじべえ

さんに かんしゃを

して、いどに 「さじべ

え いど」という な

まえを つけました。

(おはなし あいちのでんせつ 4

『子どもが すきな 龍神さま』 愛知県教育振興会より)



●よみおわったら したの□に ○を かきましよう。



がつ

にち

ようび

(5)

ひ
ざ

(4)

て
ん
き

(3)

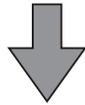
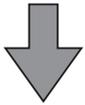
か
ら
す

(2)

は
ね

(1)

く
し





えをみて、のじをなぞりましょう。
 またうえのことばに「ッ」や「。」を
 たして、ちがうことばにへんしんさせ
 ましょう。

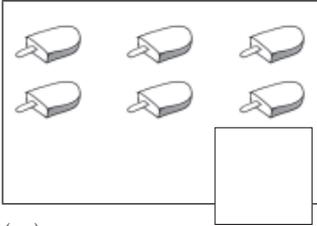
ハヤ。のしんじ ①

がっ にち ようび

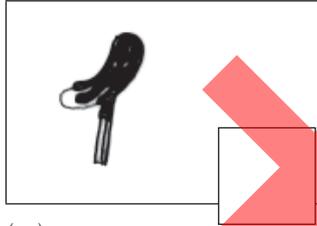
いくつあるかな

1 かずを かぞえて、□に すうじを かきましょう。

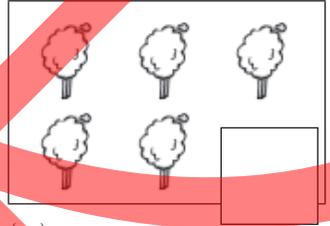
(1)



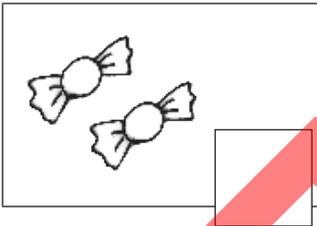
(2)



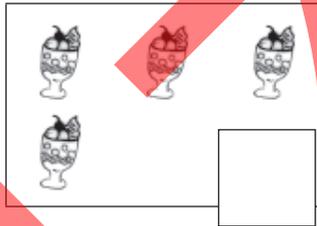
(3)



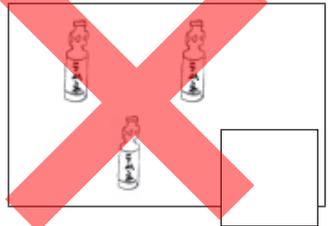
(4)



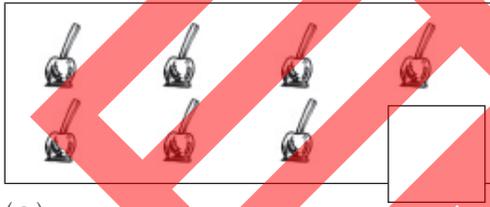
(5)



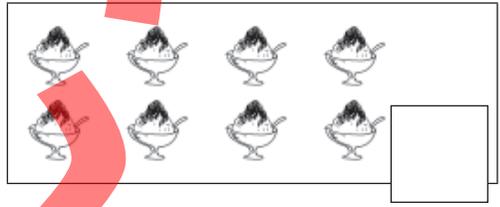
(6)



(7)



(8)



(9)



2 うえの (1)から (9)の えの なかで、つぎの ぶんにあてはまる ものは どれですか。[]の なかの えを ○で かこみましょう。

(1) いちばん すくない ものは

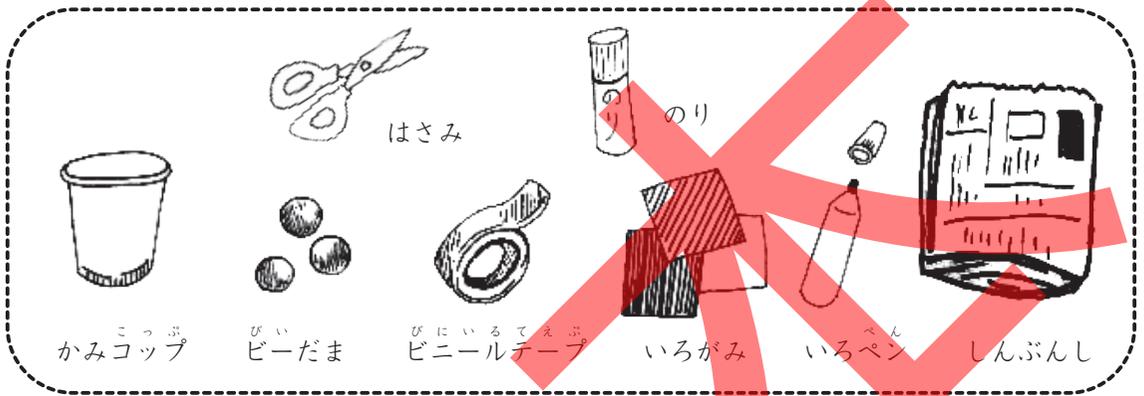


(2) いちばん おおい ものは



つくってあそぼう

かみコップで つくる ボウリングあそび



かみコップ

ビーだま

ビニールテープ

いろがみ

いろペン

しんぶんし

(1) いろがみを いろいろな かたちに きります。

(2) かみコップに いろがみをはったり ペンでもようをかいたりして かざりつけを します。

(3) かみコップに ビーだまを 入れて、もう1つのかみコップと ビニールテープで くっつけます。ボウリングの ピンの かんせいです。

(4) しんぶんしを まるめて ビニールテープをはって ボールをつくります。

(5) ピンを ならべます。しんぶんしの ボールをころがして ピンを たおして あそびます。

なつを げんきに!

あつくても げんきに べんきょうしたり あそんだり していま
すか。まもれたら みぎの えに すきな いろを ぬりましょう。

	<p>はやね はやおきを しよう はやね はやおきを して きそく ただしい せいかつを しましょう。</p>	
	<p>すききらい しないで たべよう あさ・ひる・よるの しよくじを しっかり とりましょう。</p>	
	<p>はを たいせつに しよう たべたあとや ねるまえには わす れずに はを みがきましょう。</p>	
	<p>からだを ひやさないように しよう エアコンの かぜが ちよくせつ あたらないように しましょう。</p>	
	<p>ねっちゅうしょうに きを つけよう こまめに のみものを のんで そとに でる ときは ぼうしを かぶりましょう。</p>	

なつを げんきに すごして、ぜんぶ いろが ぬれると
よいですね。

がつ

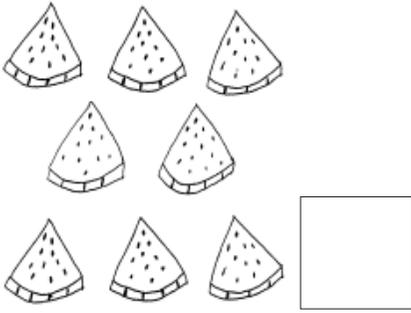
にち

ようび

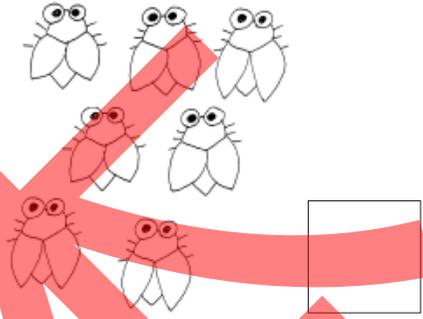


1 かずを すうじて かきましょう。

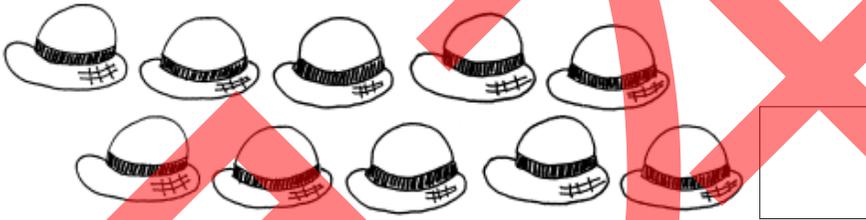
(1)



(2)



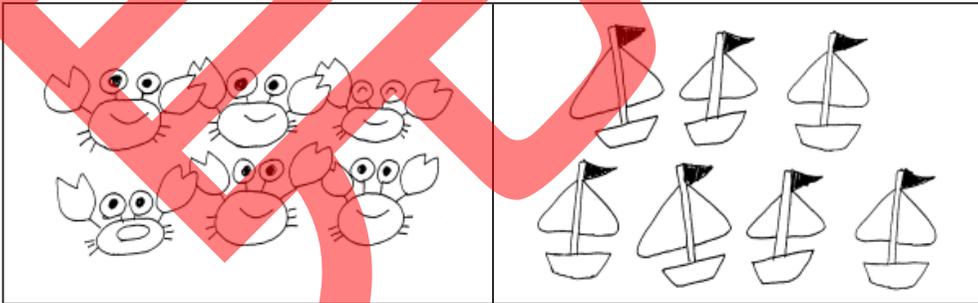
(3)



2 おおい ほうの () に ○ を つけましょう。

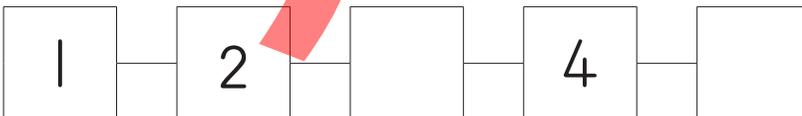
()

()

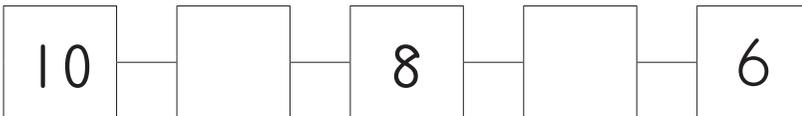


3 □ に はいる かず を かきましょう。

(1)



(2)



がっ

にち

ようび



き
よ
う
り
ゆ
う

き
き
ゆ
う

ら
つ
ぱ

じ
よ
う
ろ

き
つ
て



ぎ
ゆ
う
に
ゆ
う



し
よ
つ
き



が
つ
こ
う

ち「い」「さ」「い」「ち」「や」「ゆ」「よ」「し」「つ」

ちいさく かく じの □に いろえん
 ぴつで すきな いろを ぬりましょう。



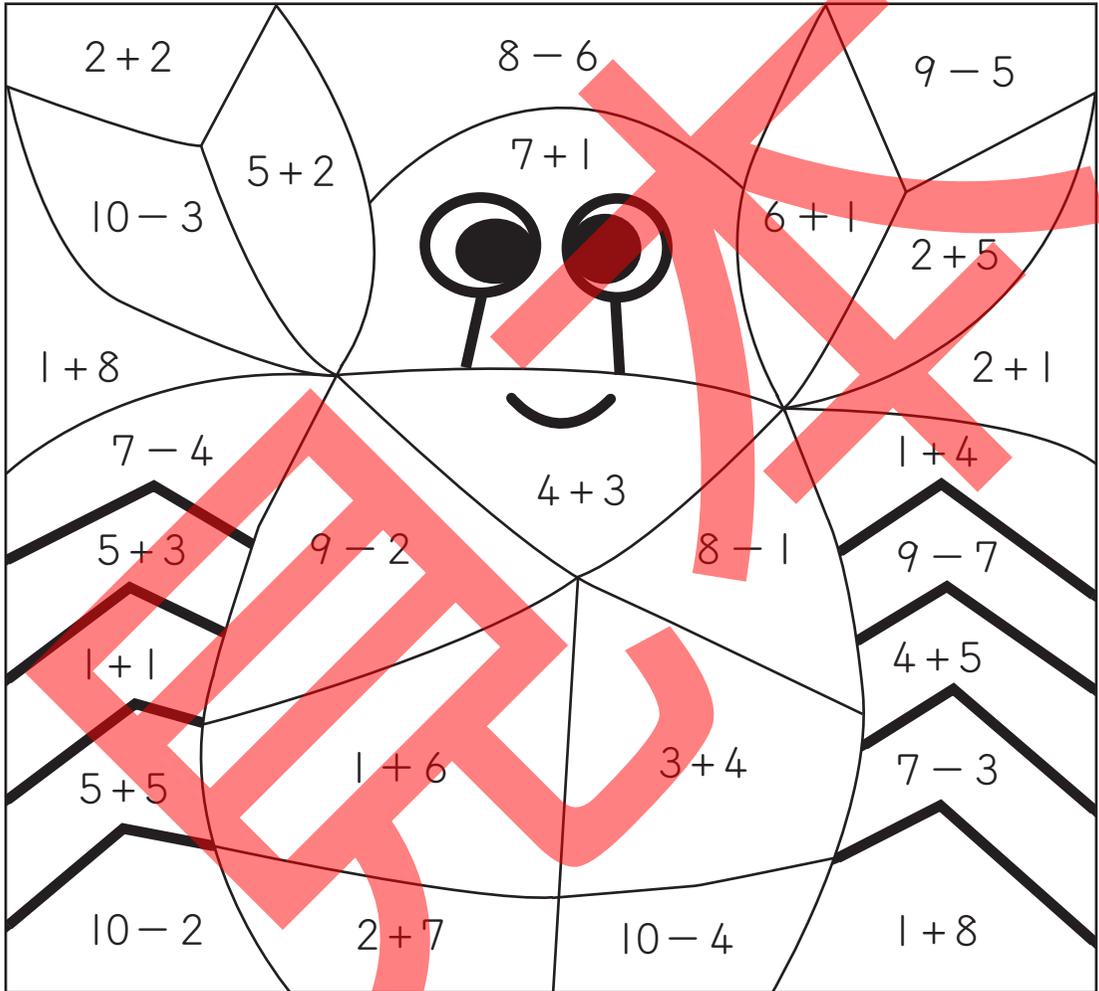
ら
つ
こ



と
じ
よ
う

なんだろうな

こたえが 7 になる ところに いろを ぬりましょう。



かくれている いきものは

です。

あいうえおのうた

ようび

くちの かたちに きを つけて おおきな
こえて なんかいも よみましたか。

にち

あさひが あかるい あいうえお

かえるの かけっこ かきくけこ

がつ

さるくん さそって さしすせそ

たこあげ たかいぞ たちつてと

ならんだ ながぐつ なにぬねの



じぶんで ◎や ○を つけましょう。

よく できた◎ できた○

くちの かたちに きを つけて よみましたか。	
おおきな こえて よみましたか。	
なんかい よみましたか。	かい

はなびが はなやか はひふへほ

まんげつ まんまる まみむめも

やぎさん やまみち やいゆえよ

らくだも らんらん らりるれろ

わははは わらうよ わいうえを ん

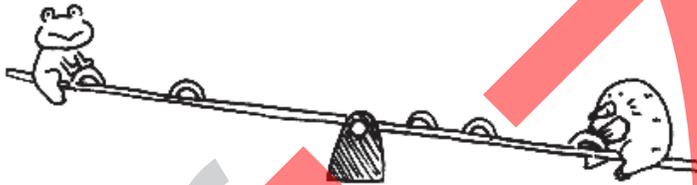


ふえたり へつたり

えをみて に すうじを かきましょう。

5ひきで なかよく

あそんで
いました。



3びき かえたので
のこりは

ひきに

なりました。

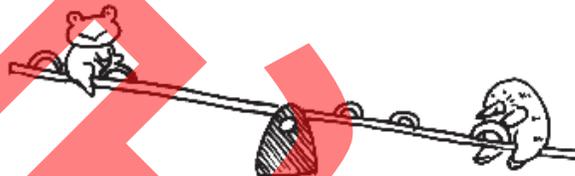
そこへ

5ひき きたので

あわせて

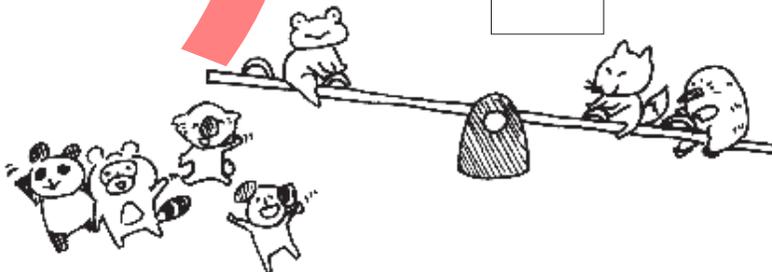
ひきに

なりました。



4ひき かえたので のこりは

びきに なりました。



ただしいのはどれ

ただしく かかれて いる ほうに ○を
つけましょう。

ようび

- (1) ① () おとうとが おおきく くちを あけます。
 (2) () おとうとが おうきく くちを あけます。
- (2) ② () わたしは はしるのが はやい。



にち

- (3) ① () へやえ おもちゃを もって いく。
 (2) () へやへ おもちゃを もって いく。
- (4) ① () はとは しょつきを つついた。
 (2) () はとは しょつきを つついた。



がつ

- (5) ① () にちようびに ゆうえんちへ いく。
 (2) () にちようびに ゆうえんちえ いく。
- (6) ① () おにいさんわ へきへ いく。
 (2) () おにいさんは えきへ いく。



- (7) ① () おとうさんが ほおきて そおじを する。

- (2) () おとうさんが ほうきて そうじを する。



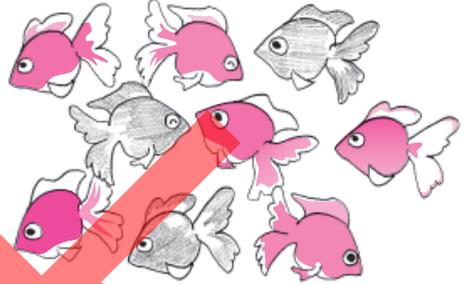
- (8) ① () あるまじろわ みお まもる。

- (2) () あるまじろは みを まもる。



たしかめよう

1 あかい きんぎょが 6びき、
くろい きんぎょが 3びき
います。あわせて なんびき
ですか。

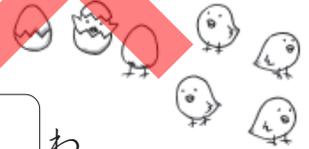


しき

こたえ

ひき

2 ひよこが 4わ うまれました。さらに 3わ うまれま
した。ぜんぶで なんわに なりましたか。



しき

こたえ

わ

3 おにぎりが 8こ あります。3こ たべると、のこりは
なんこですか。



しき

こたえ

こ

4 はこの なかに くじが 9まい あります。3まい
ひいたら、のこりは なんまいですか。



しき

こたえ

まい

なんばんめ



1 みぎの えを みて こたえましょう。

(1) くまは うえから ばんめです。

(2) とりは したから ばんめです。

(3) うえから 2ばんめは です。

2 したの えを みて こたえましょう。



りんご



ピーマン



たまねぎ



しいたけ



すいか



ぶどう

(1) すいかは みぎから ばんめです。

(2) たまねぎは ひだりから ばんめです。

(3) みぎから 3ばんめは です。

3 いろを ぬりましょう。

(1) まえから 3だい



(2) うしろから 4だいめ



おおきなハンズ

よんでみよう

ようび

くちの かたちや くぎりに
はつきりと よみましよう。



にち

一 はやくちことば...できるだけ
はやく

三きゆう

・ すももも ももも ももの うち
・ なまむぎ なまごめ なまたまご

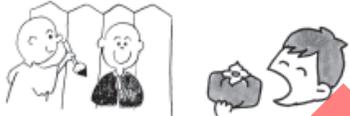
がつ

一きゆう

・ となりの きやくは よく かき
くう きやくだ

一きゆう

・ ぼうずが びょうぶに
じょうずに ぼうずの
えを かいた



二 さかさことば...うえからも したからも
よんで みよう。

三きゆう

・ やおや ・ とまと ・ きつつき
・ しんぶんし ・ るすに する

一きゆう

・ たいやき やいた
・ やすい いすや
・ アニマル マニア



一きゆう

・ わたし まけましたわ
・ にわとりと ことりと わに
・ やくに たったに くや
・ イカの ダンスは すんだのかい



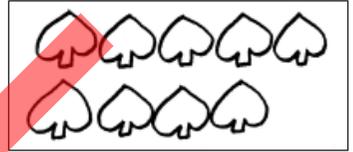
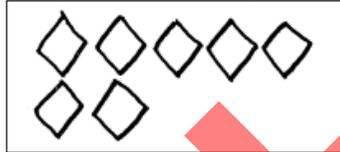
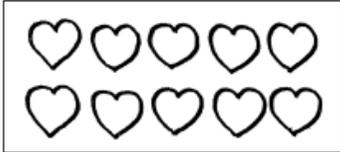
☆きいてくれた ひとに つけて もらいましよう。

よく できた◎ できた○

ただしく	おおきな	こえで	よめましたか。
よめましたか。			

10までのかず

1 おなじ かずを —で つなぎましょう。



9

10

7

2 □にあてはまる かずをかきましょう。

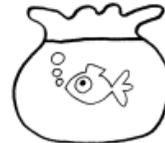
(1) さかなの かず



□



□



□

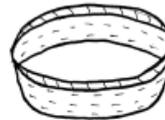
(2) みかんの かず



□



□



□

3 おおきい ほうに ○をつけましょう。

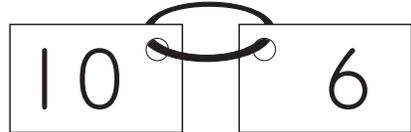
(1)



()

()

(2)



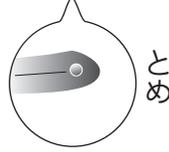
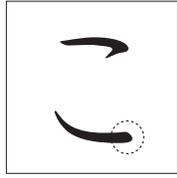
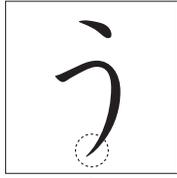
()

()

がつ

にち

ようび

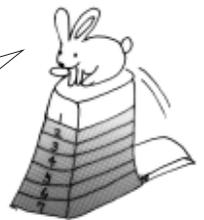


か くの お わり

た	そ	か	お	う
こ	う	ら	だ	と
や	め	あ	ん	ん
き	ん	げ	こ	

か
くの
お
わり
に
き
を
つ
け
て
か
き
ま
し
よ
う
。

う
え
の
も
じ
を
な
ぞ
っ
て
か
ら
か
こ
う



がつ

にち

ようび



(9)

は
ん
あ



(7)

う
き
ん



(5)

は
な



(3)

ん



(1)

か
い
ら

ハヤ。のびんご②



(10)

り
ん



(8)

す
と



(6)

れ
す



(4)

え
ん
つ



(2)

の
こ
り

えをみて、
 ひらがなを かいて なぞりましょう。
 の なかに あてはまる

たのしい あそびが いっぱい



しゃぼんだま

いろいろな どうぐを つかって
しゃぼんだまを つくって みよう！

【つかう どうぐ】

- ・ストロー
- ・だんボール
- ・トイレットペーパー
- の しん
- ・ぎゅうにゆうパック
- ・うちわの ほね



【しゃぼんだまえきの ざいりょう】

- ・ちゅうせいせんざい
 - ・みず
 - ・せんたくのり
- (おうちの ひとと そうだんして つくろう)

みずでっぼう

マヨネーズなどの ようきを つ
かって みずでっぼうを つくって
みよう！

【つかう どうぐ】

- ・マヨネーズなどの
ようき



★ゆせいペンで えを
かいたり、ビニール
テープで かざったり
してみよう。

【きを つける こと】

- ・ぬれても よい ふくそうで あそ
ぼう。

こおりの たまご

みずふうせんを こおらせて こお
りの たまごを つくって みよう！

【つかう どうぐ】

- ・みずふうせん
- ★ちいさい おもちゃ
(ビーズや おはじ
きなど) を 入れる
と きれいだよ。



【きを つける こと】

- ・みずふうせんは くちを しっかり
しばってから こおらせよう。
- ・おもちゃを むりに 入れると
みずふうせんが やぶれてしまうよ。

いろみず あそび

いろいろな いろの いろみずを
つくってみよう！

【つかう どうぐ】

- ・ペットボトル
- ・はなびら
- ★いろがみや えのぐ
でも つくる こと
が できるよ。



【きを つける こと】

- ・いろみずは くちに 入れては
いけません。
- ・よごれても よい ふくそうで
あそぼう。



NHK for School
すたあと
「しゃぼんだまをつくろう」の
どうがを みてみよう！



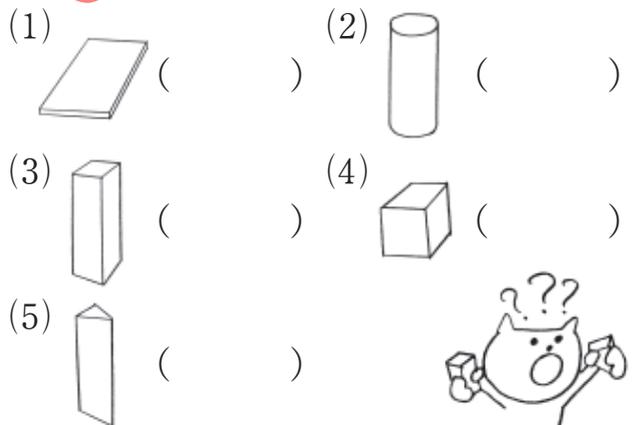
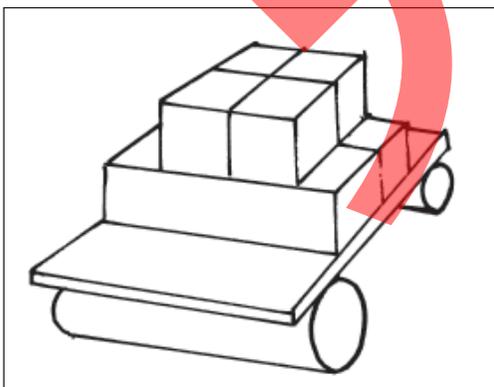
NHK for School
すたあと
「いろみずけんきゅうじょ」の
どうがを みてみよう！

にているかたち

1 ひだりの かたちに いちばん よく にている ものを
○で かこみましょう。



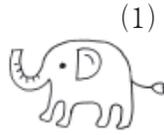
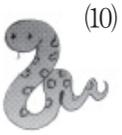
2 つみきを つかって したの かたちを つくりました。
つかった つみきに ○を つけましょう。

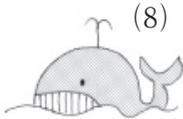


がつ

にち

ようび







◆えをみて、「 」のつくことばをひらがなでかきましょう。

ハヤ。のびんじ③

10はいくつといくつ

1 さるくんが 10こ おはじきを もって います。さるくんの にぎっている てには いくつ おはじきが ありますか。

(1)  つ

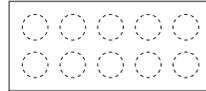
(2)  つ

(3)  つ

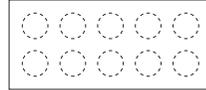
(4)  つ

2 10に なるように ○に いろを ぬりましょう。()に かずも かきましよう。

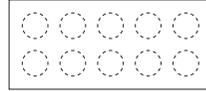
(1)  と 
4 と ()

(2)  と 
7 と ()

(3)  と 
2 と ()

(4)  と 
1 と ()

(5)  と 
3 と ()

(6)  と 
5 と ()

がつ

にち

ようび

(5)

お

□

さま



(4)

おね

□

さん



(3)

おに

□

さん



(2)

おか

□

さん



(1)

おと

□

さん



のばすおん

(10)

れ

□

ぞ

□

こ



(9)

とけ

□



(8)

お

□

かみ



(7)

ほ

□

き



(6)

ふ

□

せん



あてはまる ひらがなを かきましよう。

のばす おんに きを つけて、
□ に

たのしいおとも

かき、おおきな こえて よみましょう。 に あてはまる ただしい もじを

ようび

(1)

ぼく

は・わ

、

え・へ

き

え・へ

おじいさん

お・を

むか

え・へ

に

いきました。

(2)

おと

う・お

とと

え・へ

いが

お・を

みて、

え・へ

か

え・へ

りました。

にち

(3)

とけ

い・え

をみたら

う・お

じの

じかんだったので、

お・う

とと

がつ

へ・え

や

お・を

きれいに しました。

(4)

と

う・お

くの

お

う・お

きな

お・を

しろに

お

う・お

じさまが

います。

(5)

たし

は・わ

、

は・わ

か

は・わ

いい

う・お

し

お・を

もって、

え・へ

んそく

え・へ

でかけました。



たしざんとひきざん ①

カードの うらに こたえを かきましょう。

おもて

うら

おもて

うら

(1) $8 + 2$

(2) $4 - 1$

(3) $4 + 3$

(4) $9 - 5$

(5) $2 + 1$

(6) $6 - 4$

(7) $6 + 4$

(8) $9 - 8$

(9) $9 + 1$

(10) $5 - 2$

(11) $5 + 4$

(12) $7 - 3$

(13) $7 + 2$

(14) $8 - 4$

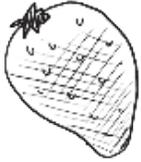
(15) $3 + 5$

(16) $3 - 2$

(17) $1 + 4$

(18) $2 - 1$

ことばで りずむ



いちご



すいか



ばなな



めろん



えびふらい



かきごおり



さくらんぼ



おむらいす

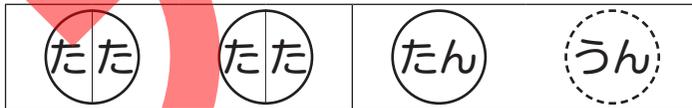
♪ことばに あわせて、あ と い の りずむを てで うちましょう。

㊦ 3もじの ことば
《きれい》 す い か



はく ● ● ● ●

㊧ 5もじの ことば
《きれい》 か き ごお り



はく ● ● ● ●

♪きいて くれた ひとに つけて もらいましょう。

よく できた ◎ できた ○

りずむに のって たのしく てびょうしが できた。

えらんだ ことばに あわせて ただしく てびょうしが できた。

がつ

にち

ようび

ぶんを

つく

えをみてぶんをつくりましょう。



(5)

(4)

(3)

(2)

(1)

(れい)

きつね

とり

さる

いぬ

ねこ

うさぎ

が

が

が

が

が

が

はねる。

がつ

にち

ようび

でんしゃ (7)

しやしん (5)

きんぎよ (3)

やきゆう (1)



ちいさくかくじ

かいじゆう (8)

べんきよう (6)

にゆうがく (4)

じゃんけん (2)



ちいさく かく じも おおきく かい
あります。ただしく かきましよう。

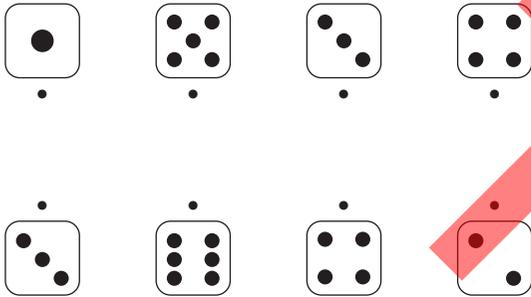
がつ

にち

ようび

いくつといくつ

1 うえの ・ と したの ・ を — で つないで 7 に しましょう。



2 いくつと いくつですか。えを みて こたえましょう。



3 あと なんこで 10 こに なりますか。



4 あと なんびきで 10 びきに なりますか。



金色のサクラ



ようび

にち

がつ

「いったいいつになつたら、いくさは

おわるものか。」

「寺の本どうも、やけおちたままだ。本
にかなしいのう。」

「ほとけさまも おられないのでは、あんし
んして くらすことが

三河の国、今村の、田んぼ道で、専超寺の
真良さんが、村人たちと話して

長い いくさで、だれもが こまりはて、

ためいきばかり ついて いました。

新しい お寺を たてよう。そして、ほとけ
さまを おむかえしよう。真良さんは、そう

かたく 心に きめました。

「どうか、本どうを たてるために、お力を
かして ください。」

それから、あちこちの 村に 真良さんの
すがたが ありました。

雨の日も、風の日も、真良さんは 頭を
下げて、たのみつづけました。

その ねっしんさに 心を うたれ、村人
たちも 少しずつ うごきはじめました。

だんだん お金も あつまり、やがて、お寺
を たてる日が きました。

「おい、あれは 何じゃ。」

大きな 声が しました。村人たちが、くわ
や すきを もつて、地めんを ならそうと、

あつまつた 時の ことです。

村人の ゆびさした ところを 見ると、
土が 少し もり上がった います。しかも、

ぼうつと 光つて いるのです。

「ふしぎな ものが うまつて いるぞ。」
おそろおそろ、一人が ほりはじめました。

ほるたびに、まぶしく なつて いきます。
カチツと、何かに 当たる 音が しまし

た。
「おお。これは ほとけさまだあ。」

ようび

真良さんが かけよりました。水で あらって あげると、やさしい お顔が あらわれました。

「ありがたいことじゃ。新しい お寺に 自分の ほうから 来てくださった。」
みんな、うれしそうに うなずきました。

秋が 来て、冬が すぎ、春となりまし

にち

りっぱに できあがった 本どうを 見上げながら、真良さんが 言いました。

がつ

「ほとけさまが 出てこられた、ありがたいところを だいに したいものなのう。」
「だれかが ふまないように、目じるしになるものを うえたら どうだろう。」

「何が よいかのう。」

それで、一本の サクラの 木を うえる

ことに しました。

村人たちは、ほとけさまに おまいりするたびに、この 木にも 手を 合わせました。

一年が たちました。また 春が 来て、サクラの 花が さきはじめました。

「おお、あの 花の色は……。」

「金色だ。まるで 光って いる みたいだ。」

「ほとけさまの 光のようじゃ。」

あつまって きた 村人たちは、金色に

かがやく サクラに うっとりしました。

「これから、何か いいことがあるような

気が するのう。」

「今年は、きつと 米も 麦も ほう作に

なるに ちがいない。」

「さつそく、お花見を しようじゃないか。」

金色の サクラの 花の下で 村人たちが

の 明るい わらい声が つづきました。

(おはなし あいちのでんせつ5)

『目かくしされた サル』 愛知県教育振興会より)

●よみおわったら したの□に ○をかきましよう。



かすのおてがみ

せんせいに おてがみが とどきました。けいさんを して したの「こたえの もじ」を いれましょう。

ぼくは、どようびの よるに

2+1	4+6	8-6	2+2	3+2	4+3	9-4
は						

に いきました。

おおきくて とても きれいでした。

ゆうすけ より



わたしは、おまつりで

9-2	5+3	2-1	7+2	2+4

を たべました。

とても おいしかったです。

さやか より

「こたえの もじ」

1	2	3	4	5
ご	び	は	た	い
6	7	8	9	10
り	か	き	お	な

おなじ「こたえの もじ」を 2かい つかう ことも あるよ。

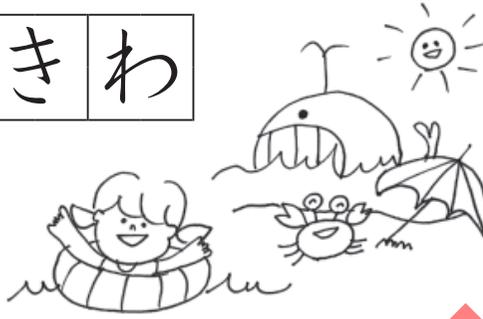


がつ

にち

ようび

	き	わ
み		



ことばあそび

や			く
---	--	--	---



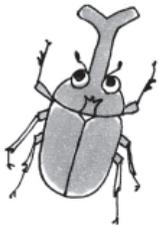
				り
--	--	--	--	---



い	い	
	い	



ぶ



	ぼ
し	



ひらがなをかきましよう。

えをみて [] にあてはまる

がつ

にち

ようび



す



し





う



ね





ち



く





い





えをみて しりとりを しましょう。

ぜんぶ
できたかな。



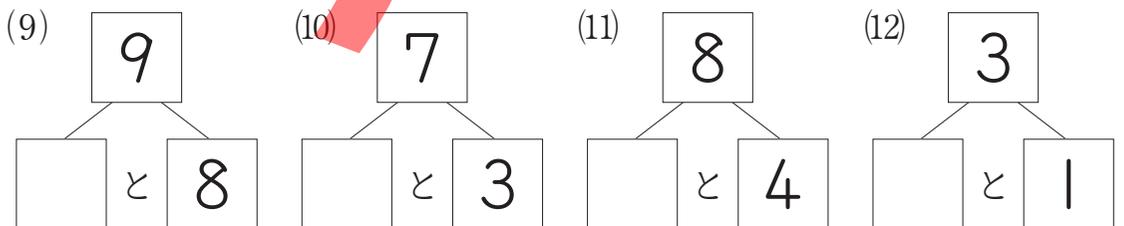
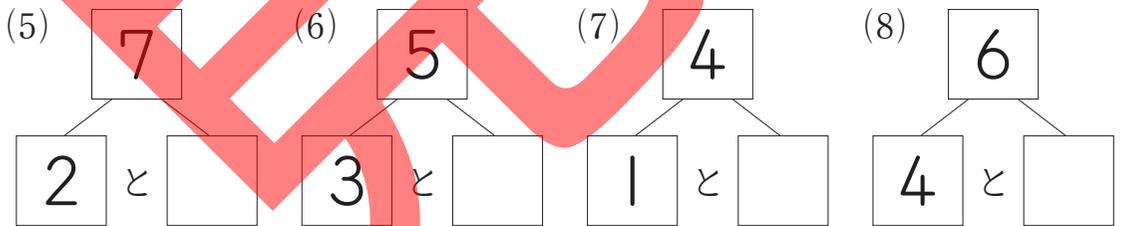
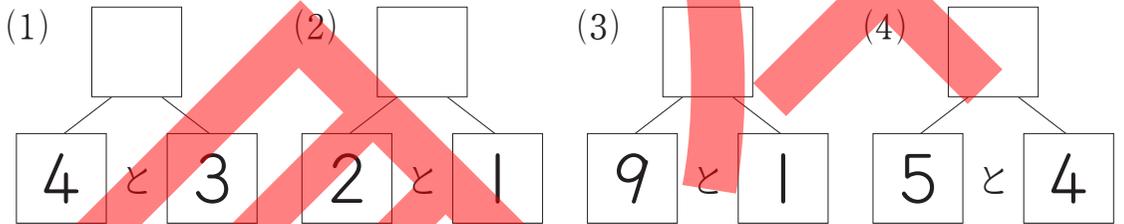
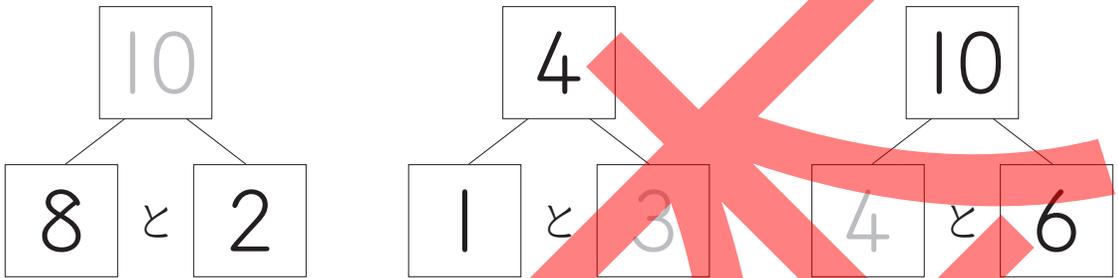
がっ

にち

ようび



□にあてはまる かずをかきましょう。



ことばあそび



ようび

えをみて
かきましよう。



に
あてはまる

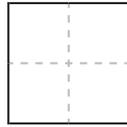
ひらがなを

かけたから
ひだりから
じゅんばんに
よんで
みましよう。

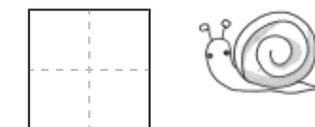
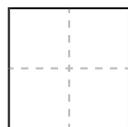
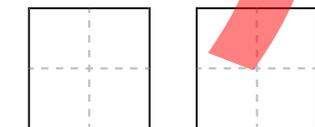
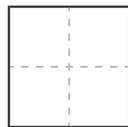
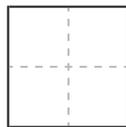
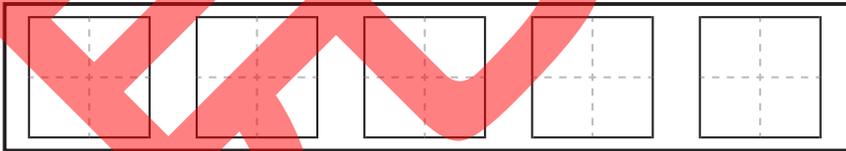
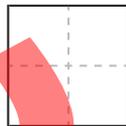
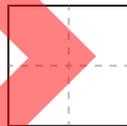
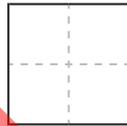
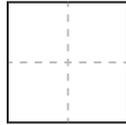
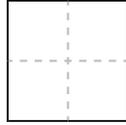
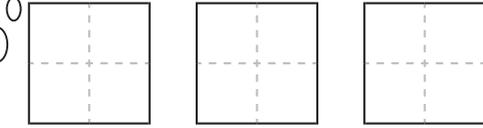
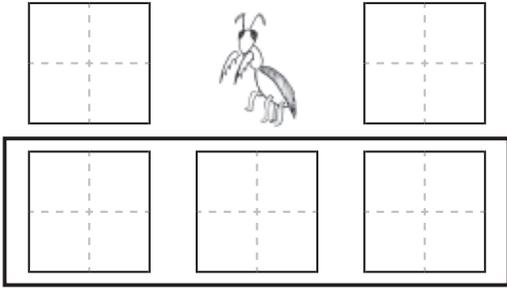


で
かこまれた
ところを

にち



がつ



ひんと

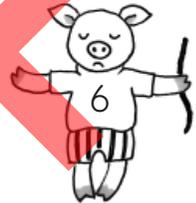
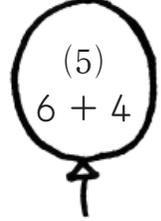
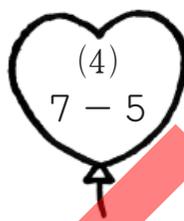
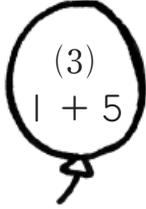
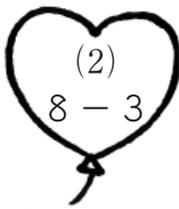
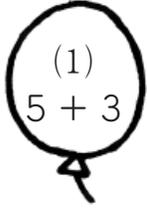
だいたいいろいろの
あまずっぱい
くだもの

ひんと

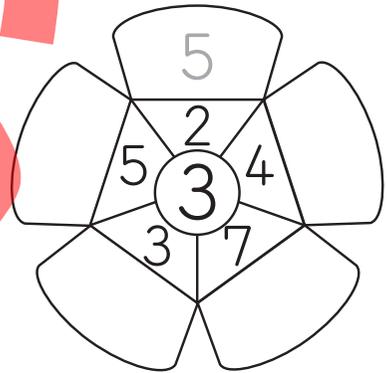
はなびや
きんぎよすくい
などが
たのしめる
このきせつの
ぎょうじ

たしざんとひきざん②

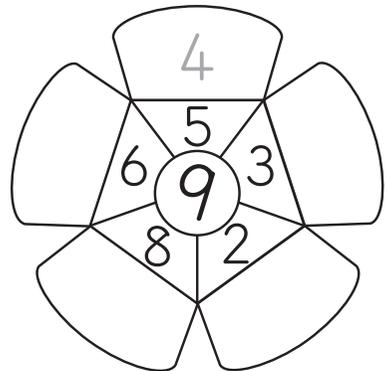
1 しきと こたえが あうものを せんで おすびましょう。



2 まんなかの かずに そとがわの かずを たしましょう。



3 まんなかの かずから そとがわの かずを ひきましょう。



なつとなかよし

たのしい なつやすみです。

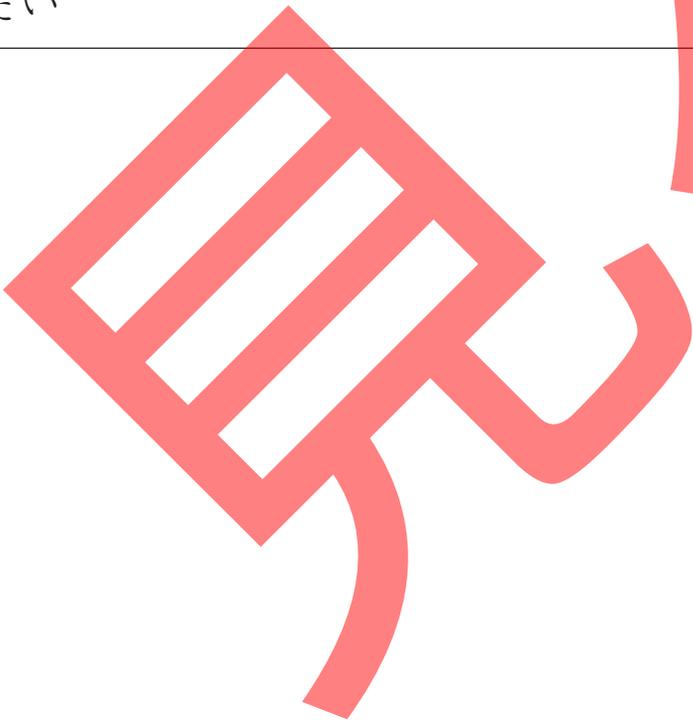
あなたは なつと なかよく して
いますか。

したことを えで かきましょう。

だい むしとりを したよ



だい



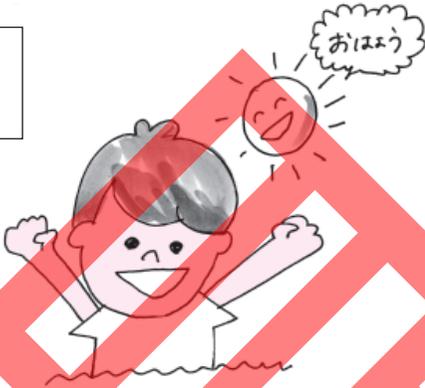
なつやすみを ふりかえって

なつやすみの せいかつの ようすを ふりかえって みま
しょう。◎ ○ △を □の なかに かきましょう。

よく できた…◎ まあまあ できた…○ あまり できなかった…△

1 はやおきが できましたか。

2 あさごはんを たべましたか。



3 ^{げえむ}ゲームや ^{たぶれっと}タブレットなど

4 はやく ねましたか。

の やくそくを まもれましたか。



つめきりとのたたかい

がまおり
蒲郡 三谷東小・一

いまいずみ りようすけ

ぱちん

いたい

あし
足のつめをきられた

ぱぼ
パパのつめはみじかい

とうぜんぼくもみじかくきられる

またつめがのびてきた

なんとかしてつめをかくそう

ぱぼ
パパに見られたらおしまいだ

ぱぼ
パパがちかくにくるたびに

ゆび先をかくす

よしよし

いいかんじ

「りようすけ、つめをきろう。」

み
見られないようにかくしてたのに

あつさりみ
あつさり見つかった

ぱぼ
パパはめいたんていか

なんてつめをきるのかな

ともだちをけがさせちゃうからって

ぱぼ
パパがおしえてくれた

それはいけない

ちやんときらなくちや

きりすぎないでね

まかせとけて

ほんとうかな

て
手のつめはいたくない

しろ
白いところをのこしてくれる

あし
つぎは足だ

あし
足はいやだ

にくもきられそう

いたい

ごめん

いたい

ごめん

いたい

まだきってない

なかなかおわらない

いつまでもつづく

つぎはいつきられるんだろう

ママにきってもらいたいな

ママがきってもいたいいんだけどね

でも ぼくはがんばるんだ

だれにもけがをさせないために





なまえ

令和7年度版 なつやすみ 1年

編集 「夏休み日誌」編集委員会
三河教育研究会

刊行 公益財団法人
愛知教育文化振興会
〒444-0868
岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 (0564)51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。
※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。